

昭和37年6月7日第三種郵便物認可 平成22年7月1日発行(毎月1回1日発行) ISSN 1882-7276

地盤工学会誌

Vol.58 No.7 Ser.No.630

特集

日本の特殊土

7

The Japanese
Geotechnical
Society
2010



社団法人
地盤工学会

<http://www.jiban.or.jp/>

CONTENTS

2010
7

地盤工学会誌

Vol.58 No.7 Ser.No.630

土と基礎

口絵写真

カルスト台地と鍾乳洞

東北地方の内陸盆地に分布する軟弱地盤への道路計画

寄稿：地盤工学技術者の観点からみた日韓の発注方式の違い

講座：高松塚古墳壁画の保存対策

5. 高松塚古墳墳丘部の冷却

特集テーマ：日本の特殊土

総説	日本の地域土—特殊な土なのか、問題土か？— …… 1 ●三浦 清一
論説	カルスト台地と鍾乳洞 …… 4 ●藤川 将之
報告	北海道の特殊土 …… 6 ●若松 幹男
	佐渡の鋭敏粘土 …… 10 ●畠山 正則
	東北地方の内陸盆地に分布する軟弱地盤への道路計画 …… 14 ●平野 寛三/近野 和則/高坂 敏明/太田 秀樹
	不攪乱まさ土の不飽和透水特性 …… 18 ●中山 義久/西田 一彦/荒木 繁幸/西形 達明
	熊本地方の特殊土と地盤特性値の信頼性の確認方法 …… 22 ●福田 光治/西浦 譲二/山崎 智寛/北園 芳人
報告 (投稿)	首都高速神奈川3号狩場線土工部舗装の排水対策検討 …… 26 ●山本 泰幹/水井 啓和/吉田 充久/孫 躍/平井 哲
技術紹介 (投稿)	筒状や袋状などの織物を利用した各種の地盤関連技術 …… 30 ●岡村 昭彦
	モアレを利用した変位計測システム …… 32 ●堀内 宏信
寄稿	地盤工学技術者の観点からみた日韓の発注方式の違い …… 34 ●李 濟宇
(学生編集委員)	小田急電鉄小田原線複々線化事業および連続立体交差事業について …… 36 ●石田 和希
学会の動き	学会賞：地盤工学貢献賞の制定と論文賞の部門新設 …… 38 ●村上 章
(ISO だより)	第24回 ISO/TC190 (地盤環境) 総会報告 (その1) …… 39 ●地盤工学会 ISO 国内委員会

第24回 ISO/TC190 (地盤環境) 総会報告 (その1)

地盤工学会 ISO 国内委員会

1. はじめに

2009年度の第24回 ISO/TC190 総会が2009年11月2日～6日にソウルにて開催された。参加国はイギリス、オランダ、スウェーデン、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランスのヨーロッパ勢が中心であり、非 EU 圏からは日本、韓国、オーストラリア、ケニアが参加した。日本からは ISO/TC190 国内専門委員会より6名の委員が参加した。

今回の会議では、17のワーキンググループ (WG) 会議と五つの分科会 (SC) 総会が開かれるとともに、CEN/TC345 (土壌の特性化) との共同会議が開催された。今回の会議で開催された WG 会議および SC 総会は表-1 に示すとおりである。

本報 (その1) では SC1 および SC2 での審議内容について報告し、次報 (その2) で SC3, SC4 および SC7 での審議内容について報告する。

2. 各分科会での審議内容 (SC1～SC2)

(1) SC1 (評価基準, 用語およびコード化)

用語の定義やコード化に関しては、WG3 (データコード化とマネジメント) の会議が開催され、サイトデータを参照可能な形に整理するための土壌に関するデータの記録と交換について NWI とすることが SC1 総会で報告された。

(2) SC2 (サンプリング)

環境調査用のサンプリングについては、WG10 (サンプリングの一般的側面の詳述) の会議が開催された。WG10 は、2008年の第23回 ISO/TC190 総会 (デルフト) で議論された3層アプローチ (Umbrella standard : 包括的規格 (アンブレラ規格), General standard : 一般規格, Dedicated standard : 専用規格) の詳細を検討するために新設された WG である。

今回の WG10 会議では、第1回 WG10 会議 (2009年9月, ベルリン) で決定したサンプリング規格の新しい構造 (表-2) が確認され、その内容について議論された。新しい構造の下では、ISO 規格をレベル 0～3 (0 : アンブレラ, 1 : Primary level (第1レベル), 2 : Secondary level (第2レベル), 3 : Tertiary level (第3レベル)) に分類することになる。今回は、レベル1に該当するもののうち、No. 3, 4, 6, 7, 12, 13, 15 について、まず各規格の草案担当者を決定し、草案の作成を次回 WG 会議までの宿題とすることになった。

これらの規格の作成を進めることにより、土壌汚染対

表-1 開催されたワーキンググループ会議, 総会

委員会・分科会名	会議名
SC1 (評価基準, 用語およびコード化)	WG3 (データコード化とマネジメント)
	SC1 総会
SC2 (サンプリング)	WG10 (サンプリングの一般的側面の詳述)
	SC2 総会
SC3 (化学試験法)	WG1 (微量元素)
	WG4 (シアン)
	WG6 (有機汚染)
	WG9 (前処理)
	WG10 (予備試験法)
	WG11 (爆発物)
	WG12 (碎石の安定性)
	WG13 (酸性硫酸塩土壌)
SC3 総会	
SC4 (生物学的試験法)	WG2 (土壌動物)
	WG3 (土壌植物)
	WG4 (微生物)
	SC4 総会
SC7 (土壌およびサイト評価)	WG4 (人への曝露)
	WG6 (溶出試験)
	WG8 (バイオアベイラビリティ)
	WG9 (動物死体の埋却)
	SC7 総会
ISO/TC190	TC190 総会
CEN/TC345&ISO/TC190	CEN/TC345-ISO/TC190 合同会議

表-2 新しいサンプリング規格の構造

No.	対象項目
1	Umbrella (アンブレラ)
2	General (一般)
3	Sampling plan (サンプリング計画)
4	Sampling techniques (サンプリング技術)
5	(not used by now) (今のところ使用せず)
6	Statistical methods (統計的手法)
7	Safety (安全)
8	Agriculture (農業)
9	Forest (森林)
10	Bio-parameters (生物パラメーター)
11	(not used by now) (今のところ使用せず)
12	Reporting (報告)
13	Quality control/quality assurance (品質管理/品質保証)
14	Preliminary survey (事前調査)
15	Transport, storage, preservation (輸送, 貯蔵, 保管)
16	Contaminated sites (汚染サイト)
17	Exploratory investigation in the field
18	Soil gas (permanent) (土壌ガス (永久ガス))
19	Stockpiles (ストックパイル)
20	Soil gas (VOC) (土壌ガス (揮発性有機化合物))
21	Pretreatment in the field (現場での前処理)

策法制定の際にも参考にされた、日本でもなじみの深い ISO 10381 シリーズがすべて新しい規格に移行することになる。

(文責 : 中島 誠, 国際環境ソリューションズ㈱)

(原稿受理 2010.4.28)